

• ①必須入力

■多少健康問題を抱えている人たちの例を示します。あなたはこうした人たちの健康をどのように評価するか、お答えください。
年齢や背景は、あなたとまったく同じだと仮定します。

011 Dさんは、テレビを見たり、雑誌を読んだり、トランプなどのゲームで遊ぶことは集中できます。1週間に1回、鍵やメガネをどこに置いたか忘れますが、5分以内に見つけます。あなたの意見では、Dさんはどの程度、物事に集中したり物を覚えたりする点で支障があると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
全くそう思わない	少しそう思う	まあまあそう思う	かなりそう思う	非常にそう思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■多少健康問題を抱えている人たちの例を示します。あなたはこうした人たちの健康をどのように評価するか、お答えください。
年齢や背景は、あなたとまったく同じだと仮定します。

012 Eさんは、ゆっくり歩くことは支障はないですが、20メートルの上り坂や一袋きの階段を上ると、簡単に息切れがします。あなたの意見では、Eさんはどの程度、息切れによる支障があると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
全くそう思わない	少しそう思う	まあまあそう思う	かなりそう思う	非常にそう思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■多少健康問題を抱えている人たちの例を示します。あなたはこうした人たちの健康をどのように評価するか、お答えください。
年齢や背景は、あなたとまったく同じだと仮定します。

013 Fさんは、仕事や社会的な活動を楽しんでいて、生活にもだいたい満足しています。3週間ごとに1、2日落ち込み、いつも楽しんでいることにも興味をなくすことがあります。あなたの意見では、Fさんはどの程度、楽しんだり、落ち込んだりしていると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
全くそう思わない	少しそう思う	まあまあそう思う	かなりそう思う	非常にそう思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■多少健康問題を抱えている人たちの例を示します。あなたはこうした人たちの健康をどのように評価するか、お答えください。
年齢や背景は、あなたとまったく同じだと仮定します。

014 Gさんは、背中の痛みに苦しみ、特に仕事で背中が曲がらなくなりますが、薬を一服すればおさまります。この体全体の不快感を除けば、ほかに痛みはありません。あなたの意見では、Gさんはどの程度、仕事の種類や量を制限するような健康上の問題があると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
全くそう思わない	少しそう思う	まあまあそう思う	かなりそう思う	非常にそう思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■多少健康問題を抱えている人たちの例を示します。あなたはこうした人たちの健康をどのように評価するか、お答えください。
年齢や背景は、あなたとまったく同じだと仮定します。

015 Hさんは、だいたい仕事を楽しんでいます。3週間ごとに1、2日落ち込み、いつも楽しんでいることに興味をなくすことがあります。あなたの意見では、Hさんにはどの程度、仕事の種類や量を制限するような健康上の問題があると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
全くそう思わない	少しそう思う	まあまあそう思う	かなりそう思う	非常にそう思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■多少健康問題を抱えている人たちの例を示します。あなたはこうした人たちの健康をどのように評価するか、お答えください。
年齢や背景は、あなたとまったく同じだと仮定します。

016 Iさんは、過去に心臓に問題があり、コレステロールのレベルを注意するように言われてきました。仕事でストレスを感じると、胸に痛みを覚え、腕も痛くなることも時々あります。あなたの意見では、Iさんにはどの程度、仕事の種類や量を制限するような健康上の問題があると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
全くそう思わない	少しそう思う	まあまあそう思う	かなりそう思う	非常にそう思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

..... ✂ ここまで改ページ

• ①必須入力

■さらに、生活のいくつかの側面について、ご自身がどの程度満足しているのかお聞きします。

Q17 家計の総所得に、あなたは満足していますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に満足している | 満足している | 満足でも不満でもない | 不満である | 非常に不満である |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

Q18 社会的な結びつき(家族、友人などに対して)について、あなたは満足していますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に満足している | 満足している | 満足でも不満でもない | 不満である | 非常に不満である |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

Q19 日常の活動について(たとえば、働いている場合は仕事について)、あなたは満足していますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に満足している | 満足している | 満足でも不満でもない | 不満である | 非常に不満である |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

Q20 生活全般について、あなたは満足していますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に満足している | 満足している | 満足でも不満でもない | 不満である | 非常に不満である |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

..... ✂ ここを改ページ

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。
あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

021 Jさんは結婚していて、子供も二人います。家計の収入は手取りで毎月20万円です。
あなたの意見では、Jさんはどの程度、家計の総所得に満足していると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
非常に満足している	満足している	満足でも不満足でもない	不満足である	非常に不満足である
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。
あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

022 Kさんは結婚していて、子供も二人います。家計の収入は手取りで毎月40万円です。
あなたの意見では、Kさんはどの程度、家計の総所得に満足していると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
非常に満足している	満足している	満足でも不満足でもない	不満足である	非常に不満足である
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。
あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

023 Iさんは独身ですが、親戚との付き合いもうまくいっていて、友人の輪も大きいです。
よくスポーツのイベントや食事と一緒に出かけます。
あなたの意見では、Iさんはどの程度、社会的な結びつき(家族、友人などに対して)に満足していると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
非常に満足している	満足している	満足でも不満足でもない	不満足である	非常に不満足である
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。

あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

024 Mさんは結婚して長くなりますが、最近配偶者と過ごす時間がほとんどなく、喧嘩することが多くなりました。
二人でいるよりもほかの人と過ごす方がよいようです。二人とも多くの友人がいます。
あなたのお考えでは、Mさんはどの程度、社会的な結びつき(家族、友人などに対して)について満足していると思いますか。

【必須入力】

1	2	3	4	5
非常に満足している	満足している	満足でも不満足でもない	不満足である	非常に不満足である
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。

あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

025 Oさんはフルタイムで週に5日働いています。
基本的に、仕事は自分のやり方で進めることができますが、今でもよく締め切りに間に合わせるために大きなプレッシャーを感じます。Oさんは大きな会社で働いていて、仕事はとても安定していると思っています。
あなたのお考えでは、Oさんはどの程度、仕事に満足していると思いますか。

【必須入力】

1	2	3	4	5
非常に満足している	満足している	満足でも不満足でもない	不満足である	非常に不満足である
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。

あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

026 Pさんは週に4日働いていますが、仕事にストレスを感じたことはありません。
仕事の身中は上司が決めており、Pさんはそれに意見をいうことがほとんどできません。
自分の仕事は非常に保護されていると感じています。
あなたのお考えでは、Pさんはどの程度、仕事に満足していると思いますか。

【必須入力】

1	2	3	4	5
非常に満足している	満足している	満足でも不満足でもない	不満足である	非常に不満足である
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。
あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

Q27 Qさんは63歳です。Qさんの配偶者は2年前になくなりましたが、
Qさんは今でも配偶者のことを考えながら多くの時間を過ごしています。
4人の子供と10人の孫がいて、定期的に訪問してくれます。
Qさんはくらし口は不自由しませんが、孫に高価な贈り物を買うなど余分なお金はありません。
最近、心臓に問題があって、仕事を辞めなければなりません。
とても疲れやすくなっていますが、それ以外には重い健康上の問題はありません。
あなたの意見では、Qさんほどの程度、生活に満足していると思いますか。
【必須入力】

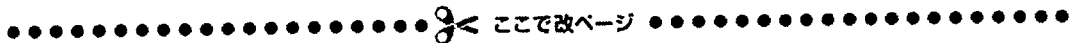
- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に満足している | 満足している | 満足でも不満足でもない | 不満足である | 非常に不満足である |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

■以下では、ほかの人たちの生活の特徴を示します。
あなたのお考えでは、そうした人たちが見せる側面をどう評価するかを伺います。
特にことわらない限り、あなたと年齢や背景はまったく同じだと仮定します。
よくわからないときは、最もよくあてはまると思われるものをお答えください。

Q28 Rさんは72歳で既に配偶者に先立たれています。手取りの所得は月に15万円程度です。
住んでいる家は持ち家で、友達もたくさんいます。
1週間に2回友人とお茶を飲み、定期的に何人かと旅行に出かけます。
最近、関節炎で苦しむようになり、家の中や庭で作業するのが苦痛になっています。
あなたの意見では、Rさんほどの程度、生活に満足していると思いますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に満足している | 満足している | 満足でも不満足でもない | 不満足である | 非常に不満足である |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |



• ①必須入力

■ご自身の住んでいる市町村のいろいろな決定に対して、あなたがどの程度影響を及ぼしているかどうか
を伺います。

Q29 あなたの住んでいる市町村に、あなたに關わる問題に取り組ませる上で、
あなたにどの程度の発言力があると思いますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| かなりあると思う | 多くあると思う | いくらかあると思う | 少しあると思う | ほとんどないと思う |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

Q30 Sさんは、近くの会社が起こす大気汚染に悩まされています。
危険ではありませんが、時々嫌な臭いがします。
Sさんとその隣人は、次の選挙で、この問題に取り組むことを公約して現職に挑戦する候補を支持しています。
この地域では多くの人たちが同じ考えを持っているので、この候補はおそらく現職に勝つと思われます。
あなたの意見では、市町村に自分に關わる問題に取り組ませる上で、
Sさん口ほどの程度の発言力があると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
かなりあると思う	多くあると思う	いくらかあると思う	少しあると思う	ほとんどないと思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

Q31 Tさんは、近くの会社が起こす大気汚染に悩まされています。危険ではありませんが、時々嫌な臭いがします。
首長はこの問題を調べましたが、現時点では、空気をきれいにするよりも、
産業の発展こそが最も重要な政策だと結論付けました。
あなたの意見では、市町村に自分に關わる問題に取り組ませる上で、
Tさん口ほどの程度の発言力があると思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
かなりあると思う	多くあると思う	いくらかあると思う	少しあると思う	ほとんどないと思う
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

..... ✂ ここまで改ページ

• ①必須入力

■最後に、医療サービスの利便性についてお聞きます。

Q32 多くの国々では、専門医に診てもらうために時間がかかり、窓口には多くの人が行列を作っています。
ご自身の経験に照らして、治療を受けるための待ち時間について全体的にどう思いますか。
【必須入力】

1	2	3	4	5
非常に短い	短い	適当	長い	非常に長い
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

• ①必須入力

033 全体的に見て、ご自身がかかった医療機関の状況をどう思いますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1
非常によい | 2
よい | 3
まあまあ | 4
悪い | 5
非常に悪い |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

034 全体的に見て、医師や看護師はあなたと明確に意思疎通して、治療に関する決定に際してあなたの意見を取り入れたと思いますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1
非常にそう思う | 2
かなりそう思う | 3
まあまあそう思う | 4
少しそう思う | 5
全くそう思わない |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

035 Uさんは胃に問題があり、痛みが激しく、手術の必要があります。すぐに入院を認められ、いまでは常時モニターされ、鎮痛剤で痛みを和らげています。しかし、生命に危険を及ぼすほどの症状ではないので、手術までに4日間待たなければなりません。あなたの意見は、Uさんが治療を受けるために待たされる時間についてどう思いますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1
非常に短い | 2
短い | 3
適当 | 4
長い | 5
非常に長い |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

Q36 Vさんは数か月前に骨折し、レントゲン写真を何枚か撮らなければなりませんでした。当初医者と看護師は骨折について話し、どのような治療をしていくか説明しました。最後に病院に行ったとき、身長、体重、血圧を測られ、何の説明もなく血液を採取されました。検査の後でVさんは検査の理由を質問し、医者がそれに答えました。あなたの意見では、医者と看護師がVさんとの程度明確に意思疎通をし、治療内容の決定に際してVさんの意見を取り入れたと思いますか。
【必須入力】

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常にそう思う | かなりそう思う | まあまあそう思う | 少しそう思う | 全くそう思わない |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

• ①必須入力

Q37 Wさんは、発熱して1週間入院しました。個室に入ることができ、清潔でしたが狭く、トイレは廊下の数メートル先にありました。その時は夏で暑く、部屋にはエアコンや扇風機もなく、テーブルに自分で備え付ける扇風機を家から持ってきました。あなたの意見では、Wさんがかかった医療機関の状況をどう思いますか。
【必須入力】

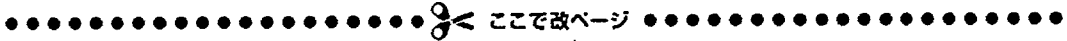
- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 非常に良い | 良い | まあまあ | 悪い | 非常に悪い |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

..... ✂ ここまで改ページ

• ①必須入力
• ①9_FA: 必須入力

Q38 あなたが現在お勤めになっている業種をお答えください。
※ホワイトカラー・・・事務職、販売職、営業職などの、製造に直接関わらない業務などを意味します。
※ブルーカラー・・・現場で直接、製造の作業に関わる業務などを意味します。
※複数お勤め先のある方は、主に働いている企業についてお答えください。
【必須入力】

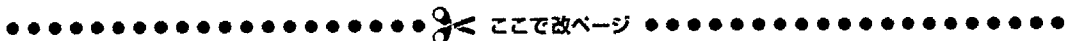
- 1. 公務員
- 2. 経営者・役員
- 3. 会社員(ホワイトカラー)
- 4. 会社員(ブルーカラー)
- 5. 会社員(その他)
- 6. 自営業
- 7. 専門職(医師・弁護士・税理士など)
- 8. 自由業
- 9. その他
- 10. 現在、仕事していない



- セレクト条件:【この質問はQ38で1-9と答えた方にお聞きします】
- ①必須入力

Q39 あなたのお勤め先の総従業員規模をお知らせください。
【必須入力】

- 1. 10人未満
- 2. 10人以上50人未満
- 3. 50人以上100人未満
- 4. 100人以上200人未満
- 5. 200人以上300人未満
- 6. 300人以上400人未満
- 7. 400人以上500人未満
- 8. 500人以上1,000人未満
- 9. 1,000人以上3,000人未満
- 10. 3,000人以上5,000人未満
- 11. 5,000人以上



- ①必須入力
- 2_N: 半角数字 / 最小1 / 整数
- ②_N: 必須入力
- ⑥_FA: 必須入力

Q40 あなたが、同居している家族を全てお答えください。(いくつでも)
※「自身の子供」がいらっしゃる方は、具体的な人数も合わせてお答えください。
【必須入力】

- 1. 配偶者
- 2. 自身の子供 人(半角数字)
- 3. 自分(配偶者)の親
- 4. 自分(配偶者)の兄弟姉妹
- 5. 自分(配偶者)の祖父母
- 6. その他
- 7. 同居家族はいない

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。
回答もれがないか確認し、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。

送信

2. “The Reaction of Household Expenditure to an Anticipated Income Change:
Clean Evidence from Bonus Payments to Public Employees in Japan^{*}”

Masahiro Hori and Satoshi Shimizutani^{**}

1. **Introduction**

One of the central tenets of the life-cycle/permanent-income hypothesis (LC/PIH) is that people engage in consumption smoothing and, as a result, income changes that are anticipated should not affect consumption at the time they occur. Rather, according to the hypothesis, individuals optimizing their consumption path dynamically over their life-time respond to a predicted change in income at the time they become aware of the change, not when it materializes.

However, notwithstanding the theoretical prediction, several empirical studies have reported that consumers do respond to predicted income changes at the time they occur and this “excess sensitivity” is not caused by liquidity constraints (Shea, 1995; Souleles, 1999, 2002; Parker, 1999; Shapiro and Slemrod, 1995, 2003).¹ At the same time, there are a few studies suggesting that the LC/PIH describes consumption

^{*} This paper forms part of our research at ESRI on Japanese consumption and macroeconomic policies in the 1990s. We are grateful to the Ministry of Internal Affairs and Communications for providing the micro-data from the Family Income and Expenditure Survey (FIES). We would like to thank Masahiro Kuroda, Noriki Hirose, Mitsuo Hosen and Ralph Paprzycki for useful comments. Moreover we are very grateful to Orazio Attanasio, Richard Blundell, Fumio Hayashi, Yukinobu Kitamura and Yasuyuki Sawada for very helpful remarks at the International Conference on Consumption organized by the COE program at Hitotsubashi University (March 2007). Special thanks go to Hidehiko Ichimura for his very constructive comments. The views expressed in this paper are completely personal and do not represent those of any institutions we belong to, including the Economic and Social Research Institute, the Cabinet Office, or the Government of Japan.

^{**} Masahiro Hori : Former Research Fellow, Economic and Social Research Institute, Cabinet Office; Address: 3-1-1 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo, JAPAN 100-8970; E-mail: masahiro.hori@cao.go.jp.

Satoshi Shimizutani : Senior Research Fellow, Institute for International Policy Studies; Address: Toranomon 30 Mori Building, 6F Toranomon 3-2-2, Minato-ku, Tokyo 105-0001 JAPAN; E-mail: sshimizutani@iips.org.

¹ Campbell and Mankiw (1989) and Wilcox (1989), moreover, present evidence based on aggregate data showing that consumption responds to predictable income changes while Akerlof (2007) provides a discussion of the role of social norms in consumption and suggests they might help to explain the excess sensitivity.

behavior well when the predictable movements in income are large and regular (Paxson 1993; Browning and Collado, 2001; and Hsieh, 2003).

One possible explanation for the inconclusive findings of earlier studies is that they focus on episodes of different types to identify the effect of predicted income changes on consumption. Broadly speaking, studies that concentrate on relatively small anticipated income movements caused by policy changes found excess sensitivity in consumption, while studies that examine large and regular predictable income movements found consumption smoothing.² In order to account for this difference, some scholars have employed the bounded rationality argument that consumers are rational in the sense that they optimally adjust their consumption only in the face of a large and regular income change.

Another possibility is that some of the episodes examined in previous papers are not necessarily appropriate to test the consumption response to anticipated income changes. As Johnson, Parker and Souleles (2006) point out, the household income changes examined in previous studies were constructed using observed household characteristics, making it difficult to obtain consistent estimates of the consumption response. In other words, most studies fail to validate the assumption that household characteristics are uncorrelated with all other unobserved determinants of the consumption growth rate, making their arguments less persuasive.

The purpose of this paper is to exploit an ideal experiment to provide much clearer evidence on consumption smoothing in response to a predictable income change

² However, even with regard to large and regular income changes, no consensus has been reached. Hori and Shimizutani (2003), for example, using data on Japan, found significant associations between bonus payments and seasonality, although these associations, while statically significant, were not economically significant. The estimate of the short-run marginal propensity to consume was only about 0.03 for total consumption.

in an unusually refined setting: until FY2002, Japanese officials conventionally received large and predictable bonus payments in June, December, and March; however, the March bonus was abolished from FY2003 (i.e., from March 2004), with sufficient advance notice. Representing a large and predictable income change, we utilize this episode to explore how the change in the pattern of bonus payments altered the seasonality of officials' consumption in FY2003 and after.

This episode provides an unusually desirable setting for the examination of consumers' response to an anticipated income change. First, it means that in our study, unlike in other studies on the same topic, we can focus on the consumption pattern of a homogenous group – government officials who are in long-term employment and are unlikely to lose their job. Moreover, the payment of salaries and bonuses of these officials is completely predetermined, which means that it is highly unlikely that consumption growth is correlated with unobserved household characteristics. In contrast, although bonus payments in Japan's private sector are also large, highly institutionalized, and predictable, it could be argued that bonuses are performance-based, leaving room for discriminating payments, and that whether a worker falls into the bonus or the non-bonus group may not be random. Therefore, to avoid these objections, we focus on public employees and study the effects of a policy change in the bonus payment system. As described in the following section, bonus payments to public employees are regulated by law, leaving no room for performance-based adjustments, and are therefore anticipated without uncertainty. By comparing the seasonality of public employees' consumption before and after the bonus payment policy change, we can escape any potential endogeneity from the non-randomness of observations.

Second, the episode allows us to focus on consumers' response to a completely

exogenous change in the timing of income payments. Although the March bonus was abolished, the total amount of bonus payments remained almost unchanged as larger bonuses are now paid in June and December. As in Shapiro and Slemrod's (1995) study, this episode allows us to distill the effect of an anticipated income change without considering other factors that affect a household's permanent income or a change in preferences.

Third, our study represents an examination of a one-off policy change whose size is relatively large. Since earlier studies supporting the LC/PIH only deal with large and regular predictable income movements, and studies not supporting LC/PIH examine only small and one-off income changes, our study on an anticipated large one-off policy change³ may help to fill the gap between such earlier studies which have produced conflicting findings.

Our question is whether the seasonal consumption patterns of public employees were significantly affected by the exogenous change in income which the abolition of the March bonus represents. To precisely measure the impact, we compare the monthly pattern of public employees' consumption in 2004 with that of a "normal" year constructed from previous years (1991-2002), using private sector employees as our control group. Contrary to earlier studies that report sizable excess sensitivity to anticipated policy changes, we find that consumers' reaction to the anticipated March bonus abolishment was negligibly small. Although we find that consumption in March 2004 was weak, this cannot be attributed to the abolition of the March bonus, since not

³ For comparison: the magnitude of anticipated income movements analyzed by Browning and Collado (2001) and by Hsieh (2003) are 1.0 monthly regular income and 0.7 monthly regular income, respectively, while that of this paper is 0.5 monthly regular income.

only public employees' consumption was weak but also that of private-sector employees who had never received a March bonus from the outset.

Thus, our findings based on a crystal-clean institutional change suggest that the LC/PIH holds for Japanese consumers, irrespective of the one-off nature of the examined predictable income change. We speculate that the difference between our findings and those obtained in the study by Johnston, Parker and Souleles (2006), which is the most recent representative work to observe excess sensitivity, comes from the size of anticipated income changes.

The remainder of this paper is organized as follows. Section 2 describes the bonus system for Japanese public employees and the abolition of the March bonus in FY2003. Section 3 explains the dataset used in this study. Section 4 compares the monthly expenditure patterns of public employees in 2004 and in a "normal" year constructed from previous years (FY1991-FY2002). Section 5 further examines whether the observed change in consumption in March 2004 is attributable to the change in the bonus scheme. Finally, Section 6 summarizes our findings.

2. Bonus Payments to Public Employees and the Abolition of the March Bonus

In Japan, the salaries and allowances of workers in the central government are uniformly regulated by law, with the National Personnel Authority (*Jinji in*, henceforth, NPA) in charge of administration, detailed working conditions, etc.⁴ The salary schedules and allowances including bonus payments for national government employees are annually revised based on NPA recommendations (the "Remuneration

⁴ Salaries consist of a monthly salary, salary adjustment pay, and teacher's duty pay. Allowances include living allowances, area allowances, and overtime allowances as well as bonus payments. Bonus payments consist of a term-end allowance (*kimatsu teate*) and a diligence allowance (*kinben tate*).

Report and Recommendation”) for the next fiscal year,⁵ mainly taking account of the salary gap between the private and the public sector. The proposal is then debated in parliament and, in most cases, approved without modification in the fall of the preceding year before taking effect. The process is open to the public and widely reported in the mass media, making payment schedules in the next year fairly predictable.

It is important to stress here that monthly salary payments and bonuses for public officials are completely predetermined and, unlike in firms, unaffected by personal performance. Moreover, unlike bonus payments in the private sector that fluctuate depending on current business conditions, the bonus amount and payment date are completely scheduled in advance and anticipated without uncertainty. Salaries and allowances for local government employees follow the pay schedule for central government employees, although there are minor variations across prefectures and municipalities.

Japanese public employees’ bonus payments and the distribution of bonus payments within a year for FY1990 to FY2004 are reported in Table 1, where they are shown as ratios to monthly regular income. The annual amounts of bonus payments have been sizable and payments are spread out over the fiscal year (i.e. June, December, and March). As we shall see in the basic statistics of our dataset, total annual bonuses relative to monthly regular income are very similar for public sector employees and for employees in large private firms, although in the case of private sector employees, bonuses are paid only in June and December, but not in March.

While the ratio of bonus payments to monthly regular income has been

⁵ The fiscal year in Japan begins in April and ends in March.

gradually falling in the public sector – probably in response to smaller bonus payments in the private sector since the late 1990s –, the change that is more important for our analysis here is the abolition of the March bonus in FY2003 (April 2003 – March 2004), of which employees were notified more than a year in advance, in August 2002. As shown in the table, the bonus had amounted to about half of a monthly regular salary.

3. Data description

The data used in this study are micro-level data from the *Family Income and Expenditure Survey* (FIES) covering the period from January 1991 to December 2004. The FIES is the Japanese Government's main source of information on aggregate consumption and is administrated by the Statistic Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications. The survey covers approximately 8,000 households from all over Japan. Single households and households employed in agriculture or fisheries are not surveyed.⁶

The sampling design is based on three steps. First, approximately 170 municipalities (cities/towns/villages) are chosen using stratified sampling based on location, population and other factors. Second, survey units (a unit consists of 100 households) are randomly chosen from all selected municipalities. Third, six non-single households are randomly chosen in each survey unit. Each household is surveyed for six months and one-sixth of the households are replaced by new households every month, making it possible to construct six-month panels. This survey provides detailed information on income and expenditures for individual households as well as on the

⁶ The FIES began covering households engaged in agriculture or fisheries in July 1999 and singles in January 2002, adding a further 1,000 households to the sample for a current sample size of 9,000 households. Moreover, the FIES was merged with the *Family Savings Survey* (FSS) in January 2002, which contains information on households' financial assets and liabilities.

characteristics of these households and the jobs of household heads. The monthly consumption data are compiled from a diary collected twice a month.

Each panel consists of 1,200 to 1,300 households on average. To improve the reliability of our estimates, we screen our data as follows. First, we delete households in which the household head is self-employed. We restrict our analysis to households with wage earners, which account for more than half of all households in the sample, since monthly income information is not available for self-employed households. Second, we exclude a household if the reported age of the household head decreases or increases by more than one year during the six months, if the household's tenancy status changes from owner to renter (or from renter to owner), or if the family size changes, because these changes are likely to be due to large shocks that may lead to large changes in the household's consumption quite unrelated to bonus payments. Third, a household is excluded if the number of family members is greater than ten because the consumption patterns of large extended households are likely to be significantly different from that of smaller households that are the norm in Japan.⁷ As a result, the number of households in the sample is reduced to about a half of the total sample (600–700 in each panel).

Furthermore, we confine our sample to households where the head of household is an office worker in the public sectors or a large private firm with more than 100 employees. Our main interest is to test whether changes in the seasonality of public employees' (the "public employee group") consumption is observed using employees in large private companies (the "private employee group") as our control group.

⁷ The number of households removed from our sample due to this criterion is very small.

In order to minimize the effect of reporting errors, we further exclude public employee households that did not report their bonus payment either in June, December or March (except March 2004) since all such employees are entitled to receive bonuses in these months. Moreover, we exclude public employee households that report bonus payments in months other than June, December and March. For households in the private employee group, we limit our sample to those who receive bonuses only in June and December. This cut is necessary to identify whether the household head works for a company that pays bonuses and to decrease the possibility of measurement errors in the main variable.

The basic statistics are reported in Table 2. The number of observations in our data set is 63,000, consisting of 38,000 households in the private employee group and 25,000 households in the public employee group. We report the basic statistics for all observations (“All Months”) and, separately, for the bonus payment months, i.e. March, June, and December. As the statistical features except those related to bonus payments are very similar across months, we begin by focusing on the numbers for all months.

They show that, first, the monthly income of the household head is similar for the two groups. Second, total monthly consumption, slightly more than 300,000 yen, and the shares of household consumption components, i.e., durables, semi-durables, non-durables, and services, are also not very different for the groups. Third, the two groups are similar also in household demographics: the average age of the household head is around 42, and the average family size is 3.6. Household heads are male in more than 95 percent of our sample households.

As for the bonus-related variables, we notice that the monthly (average) bonus income and its ratio to regular monthly income are not very different between the two

groups, at least in the “All Months” table. Even in the tables for June and December, the difference in bonus payments is small, although June bonus payments look slightly lower for the public employee group. Only for March do we observe a striking difference: the public employee group receives bonus payments worth 43 percent of regular monthly income, while the private employee group receives no bonus payments.

These observations show that households in the public employee group and those in the private employee group are very similar except for the bonus in March (until FY2002). In other words, households where the family head is employed at a large private firm that pays bonuses represent a useful control group to control for factors that are common to all households (such as macroeconomic shocks) and unrelated to the abolition of March bonuses in FY2003.

4. Changes in income and consumption patterns after FY2003

This section examines whether the seasonality of public employees’ income and consumption changed following the abolition of the March bonus in 2004 (FY2003). First, we concentrate on public employee households only to see whether the monthly income and expenditure patterns observed in a regular year until FY2001 differ from those in FY2003 and thereafter. Since the abolition of the March bonus was announced in FY2002, we exclude household observations for FY2002 from our control years. In order to statistically capture any changes in income and consumption after FY2002, we run regressions with the following specification: